

「読み解く力」の育成に向けて 単元のゴールから1時間の授業を考える

● 単元構想シート

① 目標設定

まずは、単元目標を定めます。学習指導要領や解説をもとに、育成を目指す資質・能力を明確にします。

② 単元構想

単元全体の流れを構想します。この段階では、各教科等で育成を目指す資質・能力が身に付けられる流れになるように構想します。

③ 目指す姿

「読み解く力」の2つの側面、3つのプロセスと照らし合わせて、目指す児童生徒の姿を思い描きます。

● 授業ナビシート

⑥ 本時のめあて

単元目標を踏まえて、本時のめあてを設定します。めあては、あくまでも各教科・領域等で育成を目指す資質・能力で設定します。

⑧ 「読み解く力」

本時の学習の中で、児童生徒が発揮させるであろう「読み解く力」について、2つの側面、3つのプロセスと関連付けて具体的な姿を想定しておきます。

授業ナビシートで事前に児童の反応を予測していたことが、授業中の児童の反応をしっかりと見取ることができたと感じられました。

研究委員



単元構想シート ○○市立△△小学 第3学年 国語科 単元名「ブックトークで『じんとくる場面』をしようかしよう」 12時間

| | | | |
|---|--|--|--|
| 単元目標 育成したい資質・能力 | ○心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる（読むことエ） ○本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる（知識3オ） | ①発見 必要情報を探し取り出す ②必要情報 必要情報を探し取り出す ③見直し 必要情報を探し取り出す | ①発見 必要情報を探し取り出す ②必要情報 必要情報を探し取り出す ③見直し 必要情報を探し取り出す |
| 単元の流れ ○主な学習活動 ○指導上の留意点 | 「読み解く力」を育成するための手立て | 「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿 | 「読み解く力」を育成するための手立て |
| ①「心の鍵文庫」を設置し、本に触れる。司書によるブックトークを聞き、冒頭のイメージをもつ。 ②単元の学習内容や目的を理解し、「じんとくる」という言葉の意味を考たり、「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」を見つかりたいことを通して、学習に対する課題意識をもつ。 ③単元のゴールにたどり着くまでの学習計画を考え、見直しをもつ。 第2次① ④「ちいちゃんのかげおくり」のあらすじを捉える。 ⑤「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、叙述差について捉える。 ⑥「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけについて、他の人や全体と共有し、自分の考えを確かになり深らして、よりよいわけを考える。【本時】 ⑦「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行い、グループで感想を有し、6年生に向けて行うブックトークへの課題意識をもつ。 第3次① ⑧「心の鍵文庫」の中から紹介する本を決め、「じんとくる場面」とそのわけを考える。 ⑨「ミニ会議①」「じんとくる場面」とそのわけを、同じ本を選んだ友達同士で共有し、よりよいわけにする。 ⑩自分が選んだ本について理解したことを基に感想をまとめる。 ⑪ブックトークの役割分担やハヤルを行う。 ⑫ブックトークを行い、単元の学びを振り返る。 | ①「じんとくる場面」とそのわけを、登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。 ②「ちいちゃんのかげおくり」のあらすじを捉える。 ③「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、叙述差について捉える。 ④「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけについて、他の人や全体と共有し、自分の考えを確かになり深らして、よりよいわけを考える。【本時】 ⑤「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行い、グループで感想を有し、6年生に向けて行うブックトークへの課題意識をもつ。 ⑥「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、同じ本を選んだ友達同士で共有し、よりよいわけにする。 ⑦自分が選んだ本について理解したことを基に感想をまとめる。 ⑧ブックトークの役割分担やハヤルを行う。 ⑨ブックトークを行い、単元の学びを振り返る。 | ①「じんとくる場面」とそのわけを、登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。 ②「ちいちゃんのかげおくり」のあらすじを捉える。 ③「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、叙述差について捉える。 ④「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけについて、他の人や全体と共有し、自分の考えを確かになり深らして、よりよいわけを考える。【本時】 ⑤「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行い、グループで感想を有し、6年生に向けて行うブックトークへの課題意識をもつ。 ⑥「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、同じ本を選んだ友達同士で共有し、よりよいわけにする。 ⑦自分が選んだ本について理解したことを基に感想をまとめる。 ⑧ブックトークの役割分担やハヤルを行う。 ⑨ブックトークを行い、単元の学びを振り返る。 | ①「じんとくる場面」とそのわけを、登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。 ②「ちいちゃんのかげおくり」のあらすじを捉える。 ③「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、叙述差について捉える。 ④「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけについて、他の人や全体と共有し、自分の考えを確かになり深らして、よりよいわけを考える。【本時】 ⑤「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行い、グループで感想を有し、6年生に向けて行うブックトークへの課題意識をもつ。 ⑥「ちいちゃんのかげおくり」の「じんとくる場面」とそのわけを、同じ本を選んだ友達同士で共有し、よりよいわけにする。 ⑦自分が選んだ本について理解したことを基に感想をまとめる。 ⑧ブックトークの役割分担やハヤルを行う。 ⑨ブックトークを行い、単元の学びを振り返る。 |

子どもが取り組みたくなるような必然性のあるゴールを設定したり、意味のある話合い、交流の場を設定したりするなど、子どもの思いに沿った単元構成になるように心掛けました。

研究委員

⑤ 全体の見直し

③で考えた児童生徒の姿が生まれるか、④で考えた手立てを講じることができるかという視点で単元全体の流れを確かめます。

④ 必要な手立て

単元全体を見渡しながら、効果的に「読み解く力」を育成するために、どのような手立てを講じる必要があるのかを考えます。

授業ナビシート（読み解く力 ver.） △△小3年 国語科「ブックトークで『じんとくる場面』を紹介しよう！

○単元で育成したい資質・能力

○自分の心に響いた場面とそのわけを6年生に紹介するという目的をもって読書に親しむとともに、本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる。（知識及び技能(3)オ）
○心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。（思考力、判断力、表現力等(3)読むことエ）
○自分の心に響いた場面やわけを紹介するために、見直しをもつて振り返り取り組み、学んだことを活かしながら、本の紹介を行うおとしていく。（学びに向かう力、人間性等）

○二つの側面、三つのプロセスとの関係

二つの側面
A～主に文章や図、グラフから読み解く理解する力
B～主に情景とのやりとりから読み解く理解する力
三つのプロセス
①～発見 必要情報を探し取り出す
②～必要情報 必要情報を探し取り出す
③～見直し 必要情報を探し取り出す

○本時のめあて(付けたい力)

場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

○本時の展開(児童の反応予測・思考の流れ、板書計画等)

①見直しをもち、課題を再確認する(3分)
「自分の心に響いた場面とそのわけを、6年生に紹介しよう」という目的を共有し、本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる。どのよう課題があるのか、本時は何をするのかを知る。
②めあてをもつ(2分)
わたしの「じんとくる場面」をしようかしようかのために、一番びっくりするわけは何だろう。
③グループで共に学び合う(15分)
全文スタートの「じんとくる場面」が記載されている部分に記名した付箋を貼る。
「一番じんとくる場面」と考えた「わけ」について、同じ場面を選んだ児童同士でグループで話し合う。
④自分で考える(7分)
自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。
⑤全体でともに学び合う(13分)
再構築したことを共有する。
⑥学習を振り返る(5分)
めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。次時の見直しをもつ。

課題発見・解決のプロセス 課題を見つめる ➤ 見直しをもつ ➤ 自分で考える ➤ 共に学び合う ➤ 学習をまとめる ➤ 学習を振り返る ➤ 新たな課題を見つめる

⑦ 本時の展開

授業開始時の児童生徒の実態から、目指す姿に至るまで、思考の流れや反応を予測して、なるべく具体的に書きます。そうすることで、必要な手立てが見えてきます。

⑨ 課題発見・解決のプロセスの活用

滋賀県教育委員会が示している「課題発見・解決のプロセス」に沿って授業展開を考えることもできます。

研究内容・実践事例はこちら

http://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1577322312536/index.html

滋賀県総合教育センター
令和元年度研究成果情報
「読み解く力」
プロジェクト研究

